

ボール1個、グランドソフトボールが残念ながらメダルの獲得はなりませんでしたが4位という惜しい結果でした。しかしメダルの合計獲得数は大阪市選手団の中で過去最高(金28個、銀27個、銅18個)合計73個の獲得数となりました。

次に陸上チームに帯同した茶谷の感想になります。

これまでに参加させていただいた中で感じたこととしては、選手の競技に対する意識が少しずつ変わってきているように感じました。大阪市では「選手は3年連続出場した次の年度の大会は出場できない」という選手選考の際のルールがありますが、最初の頃は、参加することに意義がありといった気持ちで、たまたま予選会に遊び半分で出場したら優勝した人もいれば、以前から競技に対して熱心な人もいて様々でした。それぞれの選手が大阪市選手団として例年のごとく顔を合わせることにになり、大舞台での経験を重ねてきたことで、上手になりたい、勝ちたい、もっと記録を伸ばしたといった意識が個々に高まってきたと思います。参加型から競技者としての意識が芽生えてきたことが今回の結果に繋がったように感じました。



個々の能力を高めるために学校のクラブ活動や、競技にに応じて専門的な取り組みを行っている団体などに所属しながら練習を行う選手が増えています。また大阪全体での合同練習会も各所属の団体ごとで、それぞれが別メニューの練習をしてきましたが、今年はコーチ陣も専門性のあるコーチや、ベテランの先生、中堅、若手が入り混じり、大阪市だけでなく大阪府下全域の各選手団のレベルアップを目指し互いに協力し合うことが増えてきました。また大会当日も応援しあう様子を見て、大阪全体として今後助け合い盛り上がっていきそうな勢いを感じる事が出来ました。

競技に参加する事で、喜びや悲しみ、嬉しさ、出会いや別れ感謝といったことを味わえる場所が全国障がい者スポーツ大会であると感じました。今回の経験を積んだ選手はきっとまた来年もこの場に立ちたいという思いで、仕事や練習に打ち込んでいるでしょう。

私自身も今後も障がい者スポーツの発展に携わることができるよう、また選手の皆さんと共感し楽しむことができるよう、努力したいと思います。

最後に今回初参加でボウリングチームに帯同した竹野からの感想になります。

今大会でコーチをさせていただいたボウリング競技で、大阪市選手団では3名が金メダルを獲得し、その中には4ゲームの合計スコア925点という大会新記録を出された方もいました。



大会当日に日々の練習の成果を存分に発揮された方や思うように力を発揮できなかった方など様々でしたが、結果に関わらず大会を通して得るものはとても大きかったと感じています。

私もコーチとして5日間、選手団の皆さんと多くの経験や喜びを分かち合えたことをとても嬉しく思いました。有難うございました。

大阪市身体障害者団体協議会と連名で 大阪市に要望書を提出しました

大阪市手をつなぐ育成会では、今夏に各会員様に大阪市への要望事項についてアンケートをお願いして多くのご意見をお寄せ頂きました。

お寄せ頂きました会員の皆さまからのご意見を元に要望事項をまとめ、12月の障害者週間に合わせ、12月4日(金)に大阪市身体障害者団体協議会と連名で、大阪市長宛に要望書を提出致しました。

なお、提出致しました要望事項は次のとおりです。

1. 一昨年末に市長が示された、大阪市所有施設の空きスペースを活用した障がい者の総合福祉センターの設置について、その計画年次等を具体的に提示されたい。また、それが設置に当たっては広く市内の障がい者団体の意見を聴取するよう要望する。
2. 今年3月に策定された新たな大阪市障がい者支援計画・障がい福祉計画を、着実に実行するよう要